

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2472800610
法人名	(有)桜の里
事業所名	グループホーム 桜の里
所在地 (電話番号)	度会郡玉城町矢野139-3 (電話) 0596-58-8288
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 21 年 1 月 30 日 (金)

【情報提供票より】 (H21年1月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 11 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 7人, 非常勤 1人, 常勤換算 6.6人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	43,000 円	その他の経費(月額)	21,000 円	
敷 金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 150,000 円 無	有りの場合 償却の有無	(有) / 無 5年	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり 1,200円				

(4) 利用者の概要(1 月 15 日現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名
要介護1	1 名	要介護2			名
要介護3	4 名	要介護4			3 名
要介護5	1 名	要支援2			名
年齢	平均 87 歳	最低	75 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	神戸クリニック 玉城病院 久瀬医院 中島医院 ささき歯科
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

保育園・小学校に隣接し、自然豊かな田園風景と穏やかな山並みを眺望する何時も四季を愛でることが出来る恵まれた環境に位置している。デイサービスが併設され、日当たりもよく、木の温もりのある懐かしい雰囲気有する佇まいである。高齢者福祉に熱意を持って取り組んでいる看護師でもある施設長のもと職員も理念「あ 愛・・・き きらめき・・・ら 楽・・・め めざめ・・・な なごみ・・・い いつも・・・」を共有し利用者一人ひとりを人生の先輩として温かく支援している。昼食時「ここは最高よ」と話された96歳の女性利用者を見守る若い男性職員との会話は楽しく信頼関係が感じられた。日常的に近隣への散歩や買い物・お茶会、地域のイベントにもなっている「桜の里五月まつり」など楽しみごとの多い、和やかで優しい風が流れている事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での主な改善課題であった「地域との付き合い」・「重度化や終末期に向けた方針の共有」・「夜間時の防火訓練」は検討され書面もきちんと作成し、改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	施設長・管理者はじめ全職員ともに評価の意義・目的をよく理解して取り組まれている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	現時点では1月14日に17回目が開催されている。玉城町の介護相談員、民生委員、地域包括支援センター、利用者代表、家族、ホームドクターをメンバーとして出席され、活動報告、研修・勉強会の報告、ホームドクターや介護相談員からの話のあと意見を出してもらっている。それらをサービスの質の向上に向けて具体的に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	「桜の里だより」に利用者個々の通信欄を設け、そこに現状などを報告し、少しでも家族が苦情・意見・要望を言いやすいように配慮している。また家族などの訪問時、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。それらからでた意見は運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	運営者・施設長・管理者ともに以前より地域福祉に熱意を持って取り組んでおり地域との関係づくりを大切にしている。顔馴染みの方がたも多く、地域のお祭りや保育園の行事に参加したり、事業所での介護勉強会などに参加してもらっている。また「桜の里 五月まつり」は地域の楽しみごととして開催している。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「あ…。き…。ら…。め…。な…。い…。」を基本にお互いが「心・わくわく」する人生を地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていく理念としてつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入社時に理念を説明し、会議やミーティング時など機会あるごとに確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、町内の福祉まつりに参加している。認知症の啓発活動・隣接の保育所との交流・地域の方がたも楽しみにされている桜の里最大のイベントである「五月まつり」などを行い地元の人々との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	施設長・管理者はじめ全職員ともに評価の目的・意義を理解しており、前回の改善点であった「地域との付き合い」「重度化や終末期に向けた方針の共有」「夜間時の防火訓練」は評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員・介護相談員・地域包括支援センター・利用者代表・家族・ホームドクターが出席し、2ヶ月に1回開催されている。ホームドクターや介護相談員からの話のあと意見を出してもらい、そこでの意見をサービスの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所での家族介護教室の開催や、認知症サポーター養成講座の講師として職員を派遣しており、町の保険福祉事業所との連携を確保している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	「桜の里だより」に利用者一人ひとりの通信欄を設け、担当者から写真もいれて現状などを、家族に定期的及び個々に合わせた報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にさりげなく相談箱を設けている。また家族や来所者の方がたが意見や要望を言いやすい雰囲気づくりに努めている。家族からの意見などには些細なことでも速やかに検討し改善していく体制がある。「苦情受付処理報告書」も作成している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者・施設長・管理者ともに異動による利用者へのダメージを充分承知しており、離職者がでないように事業所の雰囲気づくりに努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全ての職員が公平に熟練度と研修会のテーマを参考にして県・町・県社協主催の外部研修に参加している。また運営者・施設長は各種資格取得の自己啓発を職員に促し支援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三重県グループホーム連絡協議会の勉強会や見学会に参加して交流している。また玉城町地域サービス向上連絡会・玉城町福祉祭りに参加して地域の同業者と交流する機会を持ちサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心して入居できるように家族とも十分に話し合い、体験入居を数日間行ない、徐々に馴染めるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として和裁やお茶・お花の先生・園芸や料理などの得意な方から教えてもらい日々支えあいながら信頼関係を構築している。利用者・職員ともに喜怒哀楽の共有や利用者自身で意見を出せる場面作りの支援をしている。いつも「ありがとう」の言葉を忘れずに支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人にできるだけ寄り添い意志の疎通を図りながら、日々の表情や行動から利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。また理念のお互いが「心・わくわく」する人生を念頭に支援している。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	主治医・家族・本人からの意見やミーティングなどでの意見交換をもとに課題を出し合い全員参加で介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員は日々利用者一人ひとりの介護計画と照らしながら変化を家族や関係者と話し合い、現状に即した介護計画の見直しも行なっている。3ヶ月に1回の定期的な見直しも行ない家族の同意も得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	お茶や和裁の先生だった方に指導を仰ぎ、月1回のお茶会を開催している。畑の草抜きや配膳やウッドデッキでの洗濯物干しなど一人ひとりの力を活かした役割の支援を行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用開始以前よりのかかりつけ医の受診を継続するとともに事業所のホームドクターとの関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	施設長はベテランの看護師である。ホームドクターの訪問医療、看護師による訪問看護も行なわれている。家族の希望もあり終末期の対応経験もある。「重度化した場合の対応に係る指針」「看取り介護について」の書面はきちんと作成されている。状態の変化があるごとに家族の思いの変化にも留意して支援している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉づかいも穏やかで、利用者一人ひとりに優しくゆっくりとした言葉かけや対応であった。個人情報の保護もよく理解して支援している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、職員側の決まりを優先するのではなく利用者一人ひとりのペースを大切にその人らしい暮らしの支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳や片付けは利用者と一緒にいき、食事は同じテーブルで会話をしながら楽しみになるよう支援している。ゆっくりとマイペースの方には見守りながら一人ひとりの力を尊重している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者一人ひとりに声かけをし、希望の時間帯の入浴の支援を行なっている。また入浴を楽しめるように不安などの軽減に努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お茶や和裁の先生だった方に指導を仰ぎ、月1回のお茶会を開催している。畑の草抜きや配膳やウッドデッキでの洗濯物干しなど一人ひとりの力を活かした役割の支援を行なっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に近隣の神社や小学校への散歩・買い物・ドライブ・喫茶店や外食など利用者一人ひとりの状態や希望に添って支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員鍵をかけない生活の重要性を認識して安全な生活を送れるように支援している。(近隣にある駐在所の協力も得ている。)		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災マニュアル・緊急連絡網・備蓄を整備し定期的に消防署などとも連携した訓練を実施している。また前回の改善項目でもあった夜間の災害を想定した避難訓練も行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	隣接のデイサービスの調理師が考えた食事メニューであるが、栄養バランスやカロリーなどきちんと管理している。特に夜間の水分摂取が出来るように支援している。		
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆったりとした木の温もりのある明るい玄関・リビング・食堂には季節の生け花が飾られ居心地よく過ごせる配慮が随所に見られる。また大きな窓からの自然光や風は心地よく安らぐ共有スペースになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな窓のある各居室には仏壇・お花など利用者一人ひとりの思いに配慮し、居心地よく過ごせる工夫をしている。(居室に洗面台が設置してある)		